

津々浦々 ①

津久見市長 吉本幸司

早いもので私が市長に就任して5年と6カ月が経ちました。津久見市の課題や政策、将来の津久見については、議会や地域懇談会、各種の会合などで色々とお話をさせていただいています。これからは、もっと多くの方に私の考えなどをお伝えするため、今月から「津々浦々」をスタートさせました。

がんばる津久見高校

先日、津久見高校運動部の高校総体結果の報告会がありました。私も高校時代はラグビー部に所属していましたが、当時は約1900人の生徒が在籍し、春の甲子園大会優勝、ボクシングのインターハイ優勝などスポーツでも最盛期でした。現在、



高校時代はラグビー部に所属

生徒数はその4分の1の442人と少なくなっていますが、団体競技の軟式野球部のほか、フェンシングやボクシング、レスリングなど個人種目でも素晴らしい成績を残しています。生徒、先生、保護者の皆さんが一つになつて力を合わせた結果だと思えます。

かつては……

全国的に合併が進む中、津久見市は、全国の市の中で、16番目、九州では3番目に人口の少ない街になりました。

かつては、みかんやマグロを代表とする一次産業、石灰石関連産業等で大きく繁栄してきましたが、経済や世界情勢の変化などにより、過去の繁栄をそのまま期待することとは難しくなっています。

海と緑につつまれた自然、市の個性や環境、そして何よりも「人」という財産を活かして力を合わせれば、新しい津久見の未来が見えてくると信じています。

元気ある津久見市。

活力あるまちづくりへ

これからの地域を守り育てるためには、地域で生活する住民の一人ひとりが地域づくりの主体となることが重要です。

「個人でできることは個人で」、「地域でできることは地域で」を基本として協働のまちづくりを進めていただきたいと考えています。地域と行政が協働してまちづくりを進めるためには、地域づくりと一緒に考え、実践する組織と人づくりが大切になってきます。

区長さんや地域のリーダーを中心とした市民参加の「まちづくり協議会」、今年は「語らいのまちづくり」、「行ってみたいまちづくり」、



ふるさと振興祭では、津久見高校の生徒と合同で出店しました。

「暮らしやすいまちづくり」をテーマとした3つの協議会の設置、参加を呼びかけます。

この協議会を核に、自主的にチャレンジする活動については、事業費の補助や支援を行っていきます。

Ⅱ 地域と行政の連携 Ⅱ

地域コミュニティ担当と

サポーター制度

地域住民が主体となつて地域づくりを進められるよう、行政が持っている情報の提供や助言、協力などを通じて皆さんと一緒に手伝いを行う地域コミュニティ担当を、市役所の各職場に配置します。

また、地区の協議やイベントに直接参加して地域の一員として一緒に活躍する地域サポーター制度も準備しています。

四浦半島の河津桜、檜の実少年少女合唱団の活動、いつもきれいなつくみん公園。地域や団体、ボランティアの皆さんの活動は他市に負けない素晴らしい取り組みです。

子どもから大人、そして高齢者が安心して健やかに暮らせる津久見市の実現を一緒に目指していきましょう。